

Los Naranjos
2000.10.6
生涯学習フェスティバル

褐色の
"ソン"が
やってくる
in
えぽあ



「ロス・ナランホス」とはスペイン語で「オレンジの木」という意味です

この秋、えぽあの記憶に残るコンサートが開かれます。
ここ数年、欧米でキューバの文化が大流行しています。
日本でも音楽・美術・料理

と、今一番オシャレなのがキューバです。そして、今年キューバアートウィークというイベントが札幌を中心に行われ、我が江別もその動きに呼応しました。

「ソン」って何だ
「ソン」とは伝統的なキ

ューバ音楽で、「マンボ」や「チャチャチャ」の原型となったもの。

一〇月六日(金)、地球の裏側から「ロス・ナランホス」というバンドがやってきます。このバンド、結成がなんと一九二六年、メンバーが欠けてはまた補充しながら四分の三世紀も生き続けてきたバンドで、現在はその中心が八〇歳

代というハイパー老人達です。
彼らは近年欧米にも演奏に出掛けるほどその名声が上がっていますが、大都会ハバナには一切出ずに、小さなホームタウンにこだわり続け、由緒正しい「ソン」を聞かせてくれる人間国宝的バンドです。
このチャンスを見逃す手はありません。チケットの販売は八月十日から市内三公民館及び市民会館で。

一般 前売二、五〇〇円 当日三、〇〇〇円
大学生 前売二、〇〇〇円 当日二、五〇〇円
(高校生以下) 前売一、五〇〇円 当日二、〇〇〇円
十月六日(金) 午後七時開演。
問い合わせ先 江別市教育委員会生涯学習課事業推進係
0381-11062

四〇年の封印が解けた

「世界で最も美しい島」カリブに浮かぶキューバはコロンブスにこう形容された。

ラテンアメリカ諸国一番の治安の良さを誇り、人々は親切が服を着て歩いているように、物質的不自由さもかえって快適に感じています。
そんな国だ。

そのキューバが社会主義国となつてからおよそ四〇年の間、我々日本人に届くキューバの情報はほぼ全て「アメリカ」という「フィルター」を通してのものだった。しかし、実際のキューバは、共産圏に対して想像しがちな「暗くて不自由な」イメージとは程遠く、世界中で旅行者のリピート率が最も高いといわれるキューバ。アメリカによる経済封鎖が解け、アメリカ文化に染められてしまう前に行つてみては。長時間のフライトもコロンブスに比べれば軽いでしよう。

コミセンもキューバ

右の「ロス・ナランホス」公演より一足早くコミセンを舞台に繰り広げる「キューバフェスティバル・イン・えぽあ」は、飲んで食べて、サルサの熱いリズムに酔って、五感全部でキューバを体験しようというお祭り。この機会に

頭の先までどっぷりと浸かってみてください。
開催日 一〇月一日(日)。会場 コミュニティセンター。入場料 五〇〇円。お問い合わせ 江別市民国際交流協会事務局 0385-5050まで。

寄稿

日々楽しむ私の生涯学習



細田勝彦さん

野球少年

子供の頃、学校が終わると近所の公園で日が暮れるまで野球をしていました。4人集まれば三角ベース(2塁ベース無し)が始まるといった調子で、公園に行けば誰かかれか野球をしていたものです。

中学校からの部活としての野球は、まさに「学習」でした。上下関係の厳しさは必要以上、精神鍛練の部分がその大部分で、この時期培ったことが、現在社会人として私のプラスになっています。

今「ライアーズ」という草野球チームの監督をしています。昔、公園で遊んでいた友達と二〇年たった今も同じメンバーです。幼なじみということもあってチームワークは最高です。朝四時に起きての朝野球

ですが、眠たい目をこすり仕事辛いのも顧みず仲間が集まります。札幌から来るのもいれば、美唄から一時間かけて来るのがあります。それでも皆が口々に言うのは「ストレス発散」という言葉です、朝から大声を出し、一つの球を追いかけて一喜一憂し、清々しくとても気持ちの良いものです。

今後、楽しむ部分では体が

続く限り朝野球をしていたのですが、かなり限界に近づいてきたので、ビールを飲むでのテレビ観戦が主になるでしょう。

(青年会議所)

夫婦で健康

四、五年前から夫婦でパークゴルフを始めた。

それまでは、休みになるとパチンコに出掛ける夫に置いてきぼりにされ、寂しい思いをしていましたが、パークゴルフを始めてからは休みの日待ち遠しくなり、初めての



親子でバターづくり挑戦
おいしくできるといいね

コースに出掛けるのが何より楽しみです。

運動では何をやっても夫についていけないかった私ですが、これだけはルールも成績も気にせずにできるので。夫も「対等に遊べるし、健康にも良い。」と言つて、喜んで付き合ってくれます。



多田正江さん

年々厚くなるお腹の脂肪を少しでも減らすように、パークゴルフの時は一万歩を目標に歩きます。あまり成果は上がりませんが、草の上を歩く

思い通りにはならないEメールですが、メールの交換をしている人がいます。中には遠く離れた場所にいる人もいます。どんなに遠く離れていても、いつでもつながることができることにすごく驚きました。

Eメールをするようになって、手紙を書くようになりました。早さはもちろんEメールにはかないませんが、手紙をもらった時はとても嬉しくて、文章がまとまらなくて困る時もありますが、手紙やハガキで近況を知らせたりする

のは足や腰にとっても心地良く、夫の腰痛も知らず知らずのうちに楽になるそうです。

年に一、二回は兄弟達と観光を兼ねてパークゴルフ旅行に行きます。日が暮れるまで遊び、温泉に入り、おいしい食事を食べ、ぜひたく三昧させてもらいます。

年齢層も幅広く、服装もかまわず、何よりも健康的・経済的なパークゴルフをこれからも続けていきたいと思つています。

(幸町在住)

回数が増えました。

Eメールのおかげで人のコミュニケーションの大切さが分かってきました。これからは、もつと文章が上手になって、自分の気持ちを早く伝えられるようになりたいと思つています。

(野幌末広町在住)



メールが届いています



深瀬尊子さん

「ねえ、楽しいから絶対始めた方がいいよ!」、という友達の話聞いてから半年後、私もやっと自分自身のパソコンを持つことができました。しかし、実際にインターネットに接続してEメールができるようになったのは、パソコン購入から一カ月ほどたって

からでした。

Eメールを始めてからコミュニケーションの選択肢が増えました。でも、その反面、相手に自分の気持ちや言いたいことを文章で伝えるということ、すごく難しいことなんだと実感しました。

こんな風にまだまだ自分の



江別市母子会

畑 和子

当会は、昭和三〇年、母の手一つで子育てをする人の相互扶助等から発足、四五年には社団法人江別市母子会として認可を受けました。物もない、制度もない、ないない尽くしの中、心が一つにまとまっていたことが、今日まで続いてきた理由だと思います。

力の結晶です。

当会では、母子世帯のお母さん達に魅力ある会をアピールするために、自立促進事業を開講して簿記・ワープロなどを勉強してきました。昨年もホームヘルパー二級課程を土・日を利用して四カ月（三〇時間）勉強し、一人もり



ホームヘルパー2級講習会の実践
シーツ交換は順序良くしましょ



子どもとのふれあいは何より大切

お母さんがんばって

タイヤすることなく全員が知事さんから認定

き、お年寄りとも関わりたいという人はたくさんいるのですが、それでもめげずに、個々で更にライセンスに挑戦しています。

なのは、子どもとのふれあいです。年二回、会員の親睦交流と研修を兼ねて行事に創意工夫しています。地域の支援あつてこそ継続できることなので、積極的に社会参加する努力も忘れてはならないと思います。

たことで、いくつもの制度ができ、母子福祉の向上につながりました。例えば、児童扶養手当制度は、一八歳の誕生日で支給停止でしたが、高校卒業まで拡大できたのも、全道・全国のお母さん達の声と

書をいただきました。でも、残念ながら、介護保険制度がスタートしてヘルパーの需要が高まっているのに、短時間のパートでは生活安定に結びつかず、活かされていないのが現状です。介護の仕事は好

道母連の事業に高校生の奨学金給付制度があります。全道二四〇数名のうち、当会から年三名程推薦しています。年額六万円は経済的に喜ばれています。そして、一番大切

〈事務局〉総合福祉センター
内 382-2250

この人おススメ!



川村宗祐さん

「茶道は、思いやりと、感謝する心を大切にいたします。」
一番町にお住まいの川村さんは自宅2階の茶室『歩歩庵』で静かに語ってくれました。

10代からもう60年近くもの間お茶の世界に生き、現在は茶道裏千家教授として、道新文化教室の講師、自宅等いくつか教室をお持ちになり、ご活躍の毎日です。

「お茶を知らない人、特に小さなお子さんや若いお母さん達にリラックスしてお茶を体験してもらいたいの、要望があれば幼稚園や保育園等にも出向きたいと思います。」川村さんは最近の青少年の荒廃に心を痛めており、お茶を通じて情操教育に一役買いたいとおっしゃっていました。きちんと正座して伝統文化を味わう、そういう時間は今の子ども達に必要なのかもしれません。

〈お問い合わせ〉川村宗祐さん
☎382-3181



今の時代、どうやって自分をアピールする?

自分って何? 生きるって...

講座『自己表現とコミュニケーション』

春の生涯学習講座は五回シリーズで行われ、個性豊かな講師が揃っていた。

一回目の講師鷺田氏は、大文学教授兼文筆家。喋りのみで九〇分もたすのは、さすがという感じ。「ワープロやインターネットは高齢者にこそ使えい勝手がある。」との言葉も説得力があった。

いはけしからん。これは男社会の弊害だ。「いや、家庭や学校の教育が悪い。」といった調子で、批判的な意見が続出、初めから彼女達を否定している雰囲気、「あれはあれでいいと思うけど」という私の気持ちを、偶然にも代弁してくれた人は、皆の冷たい視線を浴びていた。

一方、議論が盛り上がったのは「少女達の自己表現」をテーマにした三回目だった。「今の少女達の服装や言葉使

ともかくも、参加者は高齢者がほとんどで、老若男女入り交じった受講風景が見たいなあと思うのだった。(稲田)



北海道立埋蔵文化財センター

原始林に囲まれた静かな場所に、レンガ調の真新しい建物が建っています。北海道埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の保護、保存、活用を図ることを目的に平成11年11月11日に開館しました。

常設展示や図書の閲覧の他にも、考古学教室や講演会等を開催しています。

【平成12年の予定】

〈記念講演会〉11月11日(土) 13:30~

北海道考古学の諸問題~チャシをめぐる~

講師：宇田川洋氏(東京大学文学部教授)

〈テーマ展・トピック展〉

・こはく展 7月11日~9月10日

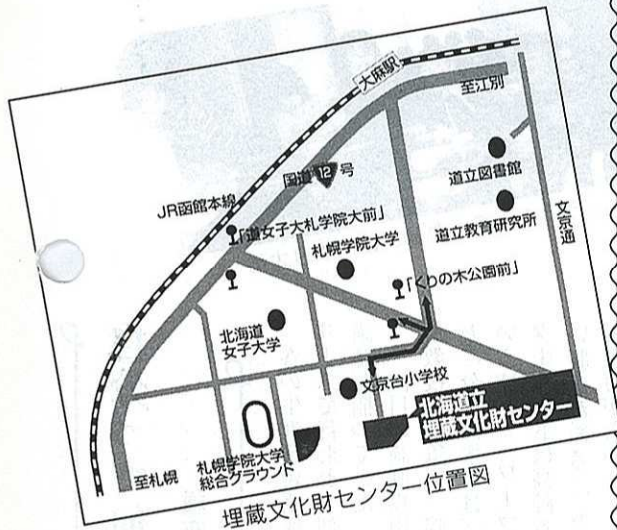
・チャシ写真展 9月12日~11月26日

〈考古学教室〉

・土器の移り変わり 9月9日 50名

・玉作りに挑戦 12月9日 20~30名

お問い合わせは、同センター(☎386-3231)へ。



埋蔵文化財センター位置図

先日、映画「フエナビスタ ソシアルクラブ」を観た。ロス・ナランホスと同様のキューバの爺さんバンドのドキュメンタリー映画だが、映画のハイライトのカーネギーでのコンサートは鳥肌が立った。ロス・ナランホスは、それほど派手に取り上げられていないが、CDで聞く限り、ポーカーの歌声はこちらの方が断然良い。一〇月のコンサートがとても楽しみ。

編集後記

江別市の元気な高齢者のみなさん、声を大にして言いたいことたくさんあるんじゃないですか。『第五回えべつ老年の主張大会』では、まだまだ原稿を募集していますよ。今年のテーマは「新世紀へ連れていきたい、いきたくない」です。みなさんが生きてきたこの二〇世紀も、今年でサヨナラです。この世紀の変わり目をただぼんやりと迎えますか。それとも、二〇世紀をじっくりと振り返り、また二一世紀に夢を描いてみますか。前述のテーマ、決して難しくはないと思います。はつきり言って「何でもアリ」です。今の世の中を見渡すと、「こ

私の宝物

凍土に生きて

近藤与四郎

製本まで完全手作り、四カ月に完成したA5判六九ページ、の冊子『シベリア抑留記〜凍土に生きて〜』、これが私の宝物です。



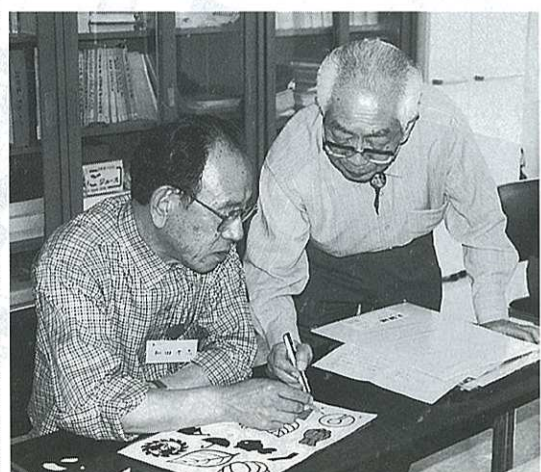
価値も無いものでしょう。それでも最初に作ったのが五〇部、その後も請われるままに増刷し、合わせて百部以上作ったと思います。

終戦後、六〇万人以上といわれる人達が、氷点下五〇度以下の極寒の地シベリアに抑留されたという事実、その内六万人以上といわれる人達が凍土に果てた事実。それもこれも、半世紀以上過ぎた今では人々の記憶も薄れ、社会的にもすっかり風化してしまいました。こうして現実を感じる時には、この本を手にして当時を回想し、ておいて良かった。と、しみじみとそう思っています。(上江別西町在住)

言いたいこと

あるでしょう?

老年の主張



老いてなお旺盛な学習意欲